



言海原稿
第六号

洋学文庫
文庫 8
A 149
12



55
118
199
(12)

少
白河行至奈行



大槻文庫

言海原稿

第六号

う 一 刈 裏ノ畧書ヲ撰テ一ノ裏ノ律律萬葉集十一ノ三丁

紙ノ お(オ)ノ條ヲ見ヨ

う 鰻 二 五 三 刈 裏ノ畧書ヲ撰テ一ノ裏ノ律律萬葉集十一ノ三丁

二 五 三 刈 裏ノ畧書ヲ撰テ一ノ裏ノ律律萬葉集十一ノ三丁

う 五 三 刈 裏ノ畧書ヲ撰テ一ノ裏ノ律律萬葉集十一ノ三丁

う 刈 裏ノ畧書ヲ撰テ一ノ裏ノ律律萬葉集十一ノ三丁

食物殊ニ稲神ウケモチノカミニウカシテ神稲荷ノ神

神代紀ニウケモチノカミニウカシテ神稲荷ノ神

魂守加乃乃太萬

う 刈 裏ノ畧書ヲ撰テ一ノ裏ノ律律萬葉集十一ノ三丁

神代紀ニウケモチノカミニウカシテ神稲荷ノ神



義也言是保持食物之計也

うけ ^イ食ハ ^イ大食ノ物 ^イおほみ ^イうみ (海) ^イおほし ^イうし (大人) ^イおほは ^イうは (祖母)

食物 ^イ食 ^イ御食 ^イ木原 ^イ津波 ^イ田原 ^イ宇奈 ^イ宇奈 ^イ煙 ^イ命

手 ^イか ^イの ^イめ ^イ神代 ^イ上 ^イ立 ^イ私記 ^イ宇奈 ^イ者 ^イ食 ^イ之 ^イ義 ^イ也

う ^イか ^イの ^イめ ^イ稻魂 ^イ女 ^イハ ^イ食 ^イノ ^イ女 ^イ始 ^イウ ^イカ ^イミ ^イタ ^イマ ^イ見 ^イ見 ^イ糧 ^イ米 ^イノ ^イ神 ^イ女 ^イ神 ^イ子

う ^イカ ^イの ^イめ ^イの ^イか ^イみ ^イう ^イか ^イの ^イみ ^イた ^イま ^イ同 ^イジ ^イ神 ^イ武 ^イ代 ^イ稻魂 ^イ女 ^イ子 ^イ加 ^イ能 ^イ迷

う ^イか ^イは ^イ雞川 ^イ雞 ^イヲ ^イシ ^イテ ^イ川 ^イ水 ^イヲ ^イ潜 ^イカ ^イシ ^イタ ^イ魚 ^イヲ ^イ取 ^イテ ^イ瓦 ^イ米 ^イ米 ^イコレ ^イ行 ^イハ ^イス ^イヲ

ま ^イツ ^イト ^イス ^イア ^イ一 ^イカ ^イ一 ^イナ ^イ九 ^イセ ^イ方 ^イ野 ^イ川 ^イ云 ^イ大 ^イ街 ^イ鯉 ^イ仕 ^イハ ^イマ ^イツ ^イ上 ^イツ ^イ瀬 ^イニ ^イ雞 ^イ川

ヲ ^イ立 ^イテ ^イ同 ^イ十 ^イ七 ^イノ ^イ三 ^イ十 ^イ六 ^イ宇 ^イ奈 ^イ比 ^イ川 ^イ清 ^イヲ ^イ瀬 ^イ毎 ^イ宇 ^イ加 ^イ波 ^イ立 ^イテ

う ^イ盛 ^イ諾 ^イハ ^イ宜 ^イノ ^イ諺 ^イ根 ^イナ ^イリ ^イむ ^イト ^イモ ^イリ ^イう ^イん ^イト ^イモ ^イル ^イを ^イ轉 ^イナ ^イリ ^イ一 ^イ万 ^イ十 ^イ四 ^イノ ^イ三

ノ ^イ石 ^イノ ^イ字 ^イカ ^イモ ^イ同 ^イ十 ^イ六 ^イノ ^イ九 ^イ石 ^イノ ^イ字 ^イノ ^イ諺 ^イノ ^イ根 ^イナ ^イリ ^イス ^イル ^イマ ^イニ ^イユ ^イル ^イス ^イハ ^イキ ^イト

(三) 諾 ^イト ^イ承 ^イ知 ^イス ^イル ^イニ ^イ出 ^イス ^イル ^イ聲 ^イ

信明集 ^イ今日 ^イ中 ^イニ ^イ石 ^イト ^イモ ^イウ ^イト ^イモ ^イミ ^イト ^イモ ^イト ^イモ ^イ精 ^イ鈴 ^イ日 ^イ池 ^イ人 ^イ告 ^イケ ^イ東 ^イ東

モ ^イ何 ^イ事 ^イト ^イモ ^イオ ^イボ ^イエ ^イネ ^イバ ^イウ ^イト ^イモ ^イミ ^イト ^イモ ^イミ ^イ拾 ^イ玉 ^イ集 ^イ一 ^イサ ^イソ ^イト ^イ云 ^イハ ^イマ ^イコ ^イト ^イニ ^イサ ^イソ ^イト ^イア

ト ^イウ ^イク ^イテ ^イナ ^イヤ ^イラ ^イヤ ^イト ^イス ^イフ ^イ人 ^イダ ^イニ ^イモ ^イナ ^イレ

(三) 獲 ^イル ^イ聲 ^イ鳴 ^イ川 ^イ中 ^イ特 ^イ物 ^イ得 ^イ漸 ^イ獲 ^イハ ^イ男 ^イノ ^イラ ^イト ^イ申 ^イシ ^イ女 ^イノ ^イお ^イト ^イ申 ^イス

う ^イ獲 ^イ取 ^イ天 ^イノ ^イ子 ^イ得 ^イ得 ^イ

お ^イほ ^イノ ^イ約 ^イル ^イ語 ^イお ^イほ ^イけ ^イう ^イけ ^イ食 ^イお ^イほ ^イみ ^イう ^イみ ^イ海 ^イお ^イほ ^イし ^イう ^イし ^イ大人

お ^イほ ^イは ^イう ^イは ^イ祖 ^イ母 ^イお ^イほ ^イま ^イこ ^イま ^イ馬 ^イお ^イほ ^イし ^イう ^イし ^イ牛 ^イお ^イほ ^イかり ^イう ^イかり ^イ海

賜^ル大和。鳥羽院^ニ畏^キ弟^ト名^メモ^テ夕^夕参^リテ^サ中^ニ在^リ
オモレロキ由^ル者侍^リヤト^ハ云^フタ^ラフ

らねもの 浮者^ニウカレ道^ニ居^ル者 遊^ル者^ト也

うかりひん^ト (副) 廿注然^ハ浮^キ者^ノ音^便 (冠^ニツカフ) 飄^クシテ水^ニ浮^ブ

飄^ク軽^ク同^シ 靜^カ思^ハぬ^キ 飄^ク軽^クひん^ト云^フ (ウカウカウカリトウツカリ)

續^ク山^ノ井^ノ (實^ニ文) 字^ニ房^ノ (廿世^ノ世) 夕^夕語^ニ見^ルル^ニヤ身^モウ^ウかり^ヒん^ト (夕^夕語)

ハ飄^クリ花^ヲお^ハル身^モ飄^ク如^シニ^シ云^フニ^シ婦^ト遊^ル者^ト見^ルト^ス

うかり 瀟^ハ (うかり^ノ約^ウ大^ノ條^ヲ見^ル)

鳥^ノ名^ヒひん^ヒ古^名 字^ニ鏡^ノ六^{十三} 鴻^字加^利 傳^名抄^ノ十^六十七^大同^ニ

鴻^小曰^雁加^利

うゝあき 禹^域ハ

支^那ノ異^稱 禹^域九州

う^ラニル^ウレ^ウエ 他^下ニ 植^込 地^ニ埋^メ立^ツル^也 (う^ゝあ^きノ條^ヲ見^ル)

神^武化^シタ^ニ年^十二^月 垣^下ニ^ニ字^三惠^シ 椒^口終^ク 万^十五^ノ三^{十三} 人^ノ字^三宇^流田^ハ

宇^三惠^ノカ^サス 天^治字^三鏡^七三^{十四} 宇^三宇^ノ字^三宇^流田^ハ 早^苗コ^ウウ^ス

時^ニモ 鳴^クセ^トト^ガス 手^三種^子ヲ^三種^子ト^シ生^キセ^トル^也 葉^ヲ植^テ植^テ

種^ヲ植^テ (三) 種^ヲ植^テ 毛^ヲ植^テ

五^ノ拳^ノ浸^ス 五^ノ同^ジ又^ニ無^キヲ^モウ^レス

ウ^エル^カム 新^出 八^ノ英^語 Mel ^{come} (人^ノ種^ニ近^シル)

う^ゝえ (重) 種^ヲ植^テ 種^ヲ植^テ

うり長は 鳥島

うりかい 鶏の籠 鶏の籠ニシカフ 鶏ノ入ク竹の籠

註典 鶏の籠 鶏ノ籠ニ入ク竹の籠 此河は...

うりか 自正 酒入浮かせらる

心気集 雞の籠 三味係...

うりち 第一ニ穿ツ 三機微...

川柳の... 詠刺 奇技...

うりか ぢぢぢ 嗽茶碗 嗽ヲスル水...

うりか ぢぢぢ 嗽茶碗 嗽ヲスル水...

うりか ぢぢぢ 嗽茶碗 嗽ヲスル水...

うりか ぢぢぢ 嗽茶碗 嗽ヲスル水...

(三) 夏身

千載の... 根...

(二)

うき 夏身 夏身キニトシヘ 後撰...

うき 夏身 夏身キニトシヘ 後撰...

うき 夏身 夏身キニトシヘ 後撰...

うき 夏身 夏身キニトシヘ 後撰...

うき 夏身 夏身キニトシヘ 後撰...

うき 夏身 夏身キニトシヘ 後撰...

うき 夏身 夏身キニトシヘ 後撰...

うき 夏身 夏身キニトシヘ 後撰...

うき 夏身 夏身キニトシヘ 後撰...

うき 夏身 夏身キニトシヘ 後撰...

うき 夏身 夏身キニトシヘ 後撰...

うき 泥地ハ水ノ意ニアル也。泥澤キ也。由井ノ里ノ川、泥泥即塗土ナリ。

若邊ノ水、四ノ蘆根ヨリ這テうきニ上リソコナケレ下ハエナラズ思フ

心ヲ六帖ニ「蘆ノ根ノ弱キ心ハうきゴトニマツ折レ伏シテネノ泣カレ

ケル」(三ノ自共ニ憂キニカク)宇治拾遺十三「一断ガリナルうきアリ云々」

不用ノうきナレバ畠ニモ作ルマシレうき沼人ノ住マヌラキノ沼

うき 雨季一年ノ中ニ雨ノ多ク降ル時節。梅雨ノ時ナドニ云フ

うき 飛鳥ノ池ノ水ノ清キ事

うき 雨室 アマモヨソ

うき 浮木又ウケキ。船ノ異名

神代紀下ノ廿三彦大々本見海神宮ニ至リテ所ニ一木ニ以テ目印

河ノ水ノ流ルニ浮木ニ一木ニ魚間即河ノ水トヤリ

正喜慶皇朝ノ句題名古キ宇喜藏ヲ棄テス。ソノサヤキ御着遠ク御着

元(遊神紀)枯野ト云。船ノ魚残ノ材ニ作ル琴ニ云フ

(三)竹伐ノ異名。孝徳代大化元年十有、越國言海畔枯查向東移

去沙上有跡如耕田水ニ俣名抄上ノ一船類「查植様宇岐」

船恒集、秋波イタナクナリ。オモヒエス。うきキ。乗リテ行ク人ノタメ(前漢

張喜高ガ乗様ノ故事ニ寄ケリ) 水ニ流ル木佛經ニ盲邊ノ浮木ニ過

河ノ水ノ流ル木佛經ニ盲邊ノ浮木ニ過河ノ水ノ流ル木佛經ニ盲邊ノ浮木ニ過

つぎすか
ふまか

タキ事ガ云フ、法華經の品、佛難得値、之如三眼之復値、浮
木孔、涅槃經、自覺、值、浮、木、孔、拾遺、の、哀、傷、
ニタラシ川ノ尾ナレバ、法ノ浮木ニアナリケリ、
法ノ浮木ヲ得、凡身ノ苦シキ海ニ何カ沈マシ、
生世多人難、猶如大海中盲、値、浮、木、之、孔、
ラキ、鳥鬼、禪、同、

ラキ、しま、浮島、沼ニ泥炭、其、窟、根、ナド、固マリテ、島ノ形ヲ成シ、水上ニ浮
遊タルモノ、大ナルモノ、樹木ト生ズ、山形縣ノ大沼ニアルモノ、名アリ、其、小サキ
ト浮洲トス、拾遺、の、雜、上、物、氣、人、ニ、
象ヲシバ、リ、テ、ト、夫、木、三、三、三、海ノ底ニ根ガ、マ、ラ、キ、島、ノ、
丸、カ、モ、

10 疾むらや製

ラキ、せ、夏、漸、ハ、漸、條、ヲ、見、ヨ、夏、十、時、苦、シ、キ、境、遇、
古、事、記、上、ノ、十、三、青、人、草、之、若、若、漸、而、患、
ラキ、せ、ハ、浮、執、之、ま、を、多、人、(浮、借)、ノ、條、ヲ、見、ヨ、
ラキ、む、し、ヤ、浮、武者、之、ま、を、多、人、(浮、借)、ノ、條、ヲ、見、ヨ、
ラキ、た、つ、白、口、浮、立、(一)立、カ、ル、起、ル、
秋、下、曇、ル、ト、モ、思、フ、
中、ラ、キ、た、ち、テ、人、心、ニ、タ、サ、マ、テ、ス、
ラキ、ト、ツ、ク、浮、船、渠、
ラキ、ぬ、ま、浮、江、
ラキ、ぬ、ま、浮、江、
ラキ、ぬ、ま、浮、江、

同十五ノ十二
明名清船
傳ノテ字仗
稱ヲシツレ

うきね 浮根 （地ニ固着せず） 水草ノ根 葉茂 湧別 （うきねノミ） 袂 （掛） ケシ アマ草 引キタスル
今日ノウレシキ

うきぬまは 浮草 水面ニ浮キ花 葉 （花ハ） 万セノウ 我ガ心 ニタニタニ 浮草
岸ニモ 沖ニモ 寄リカタマシラ

うきね 浮草

うきね 浮草 （一） 船中ニ浮ルコト 万十五ノ （六） 海草ニ字仗補セム 夜ノ沖

ツルイ タクナ 咲キノ 妹モアラナクニ （三） 安眠セヌコト 古今ノ 悲一ノ 涙川 枕流
ル、うきねニ 夢モサダカニ 見エズゾ アリケル （三） 一時 麻ノ 一定セヌコト 替換
六帖ニ 人言ノ 解サマセバ 水鳥
小春ノ 冬ノ 池ノ 水ニ 流ル 若草 鴨ノ 浮カ 十ノ 経ナシ 謡曲 杜若
夕夕ノ 假批 和 夕夕ノ 憂ニ 憂 同ジウキねノ 美濃 尾張

うきとせき 浮草

うきのみみ 身身 憂キ 風言 （ト） ツラキ 話

平家一ニ代心 家ヲモホテ 世ヲモ 逃レタリセバ 今カニル うちのみみキ 風カ サラマシトゾ

御草 歌キマソケル

うきよ かつり 浮世 謡 （目ガカリ） 世間 世談

謡曲 木賊 後ニ 伏屋 物語 とき世 かつり 三ノリケリ

うきした 浮田 一 渡田 氣 一 渡 涯 田 夫木 （一） 今サラニ 水モマカズ 尽

一 深キ沼ノ うち田ニ 早苗 取ルナリ

うきよ じん 浮世人 當世 風ノ人 狂言 世 吟舞 舞後 （一） うきよ じん

うきよ ながた 浮世 世 當世 世 好色 玉鳥 川 序 昨日ノ うち世 浮世 人 言
命 攝 姿 時 勢 粧
一 浮世 人 言

うけ、他 受入 受ケテ入ル。收ム。

「けい」がふルレハ 他 削「受ケル」魚 彼、意ヲ受ケテ此方ニ意ト

易フル意」前條、註意ト同じ也ナフ。ウケヒク。名義抄、肯、ウケカヘ、ムベ

ナス、キケ」不肯受、ウケカヘズ」(がふんずヲ併セ見ヨ)

うけく「副」夏「夏」(夏) 暑く、延、寒く、まむく、暑く、まむく、同じ

夏久、ツラク、万五ノ三十七、世ノ中ノ字計久都良計久

うけく「名」夏「夏」(夏) 暑く、延、寒く、まむく、暑く、まむく、同じ

古今、雜下、世ノ中ノ字計久都良計久、夏キ、ツラキ、消ナマレ

うけく「穿」(穿) 皆ノ義、うく(古)ノ條ヲ見ヨ」弊レ皆

万五ノ六、令及感情歌序、不厭、子、輕於、脱履、云々、宇段具都ク

腹ギ棄ル如ク、腹ギキテ、行クテ、人ハ

うきは 浮葉 蓮ノ葉ノ水面ニ浮キ居ル也。秋草子、ハ、うんしきま、蓮ノ

うきはノイト、トサキヲ池ヨリ取リテ見ル。山家集上、夕立ノ晴ルレバ、水ソノド

ツケル、玉エリスン蓮ノうきは

うきは、ひぢ、(浮) 泥ト重キテ、コレヲ累ニテ、語カ、(浮) 泥ト

泥ト、山家集上、サミダレニ、田ノ早苗ヤイカサニ、畔ノうきは、洗ヒヨサ

レテ、又、ソ、ヒ、其、條、ヲ、見、ヨ

うらぐひ 鴉喰ハ鴉ノ食フモノ、魚 異名、魚

神祇白頭仲家集、鴉川、竹舟火ノ光ニマカフ玉サ深ニ、うらぐひ、魚

モ隠レサリケリ」下學集、魚、ウケヒ、林邊竹節用、魚、ウケヒ、(歲魚)

年魚ノ意カ)

神武紀
又皇皇是夜祈
而寐夢有天神
訓之曰云
如此則當自
平伏也
皇皇是夜
如沐花
之榮
皇皇是夜
皇皇是夜

うけあやう 他四 受流一受止テ外へ其見。逸ス。

うけげん 三 經緯一伴ヲ見ヨ

うけはら 他四 受掛一金錢ヲトモ取ルト掛流スト

うけはら 他四 受張一身ニ受ケ入テ押張心 徳ニ振舞フ 誇張

源若菜 七十七 サルベキ方ニ 舞下ニテ 贈ラケニ けはら又ナドヲ 褒メ又人ナシ

河津 三十一 大将ニテカキテカカル 海ナカニニ けはらテ物ニタマフ

うけあ 他四 祈折 二 祈ルセヒトモト 神ニ 頼ニ 奉ル 不申事ナ 都路ヲ 遠

妹ガキナコト 海ノ 飯ヲ 持テト 宮ニ 見エ来ヌ 土ノハ 水ノ上ニ 数書ク如キ

皇皇是夜 妹ニ 逢フト 受日ルカモ 三 神ニ 祈テ 誓フ 誓約 神代紀上ノ

請返 妙 折誓 古事記上ノ 速波佐之男 命答白各 字氣系比而生

云ニ字氣系比而生 四 10 表むらや製

うけあ 祈誓
神代紀上

三 神ニ 祈テ 詛フ 古事記中 重仁ノ 拜此大神 詠有 驗者 住是

路 皇皇是夜 之 柵 路 皇皇是夜 之 柵 皇皇是夜 之 柵 皇皇是夜 之 柵

女人ヲウケヘト 志算 已ガ上ニ 生フト 皇皇是夜 皇皇是夜

うけあ 神代紀上 祈ルテ 神代紀上 皇皇是夜

皇皇是夜 下 皇皇是夜 祈 有 皇皇是夜 皇皇是夜 皇皇是夜

此ニ字氣系比 皇皇是夜 皇皇是夜 皇皇是夜 皇皇是夜

ひの 詛ゾセム アナカマヤカノ君 御上モナト 間キテ

うけあ 他四 請返 質物ヲ 賤ニテ 取返ヘス

うけあ 請返 雇ノ 請人ノ 家ノ 口入 宿ケイア

高直
例アリ
と云

ラビラビ (副) 春地物ノウメク杖ニ云フ後ウヨクウヨク

ラビメク 自四 春地物ウヨクト第々芽虫ノ這曰ガ如キニ云フ諺ムクク

オゴナク

韻瑞 墳土起也 集韻 墳土膏肥也

ラビシツ 自四 墳 (春地物) 義カ轉ジテラビシツ (過) 土をふる (ラビ) ラビ

ラビツノラビ 取換ラビラビノ同義 土高クモチカカルウクモツウゴロモツウゴロ

モツウゴロノ字取抄 墳ウゴロモツウゴロ 欽明紀十四年十月 鉅野墳

腹 手厚 彌逸 名義抄 隆ウタロモツウカシ

ラビラビ 右近大夫 右近中 將監 (相當位ニ位上) ニシテ右近中 叙ラビラビ者 作

ラビラビ 右近陣 右近陣ヲ見

ラビラビ (重) 墳 ラビラビノ條ヲ見ヨニラビラビ (韻) 語アリ

ラビラビノ同義

ラビラビ 右近中 將監 (相當位ニ位上) ニシテ右近中 叙ラビラビ者 作

ラビラビ 右近中 將監 (相當位ニ位上) ニシテ右近中 叙ラビラビ者 作

ラビラビ 右近中 將監 (相當位ニ位上) ニシテ右近中 叙ラビラビ者 作

ラビラビ 有作 有為ニ同シ 無為ノ條ヲ見ヨ

ラビラビ 于思 于思 (左傳) 宣公二年 于思 註 多怒瀕之貌 思

素才 如音 肥

自備

能 羽舞ニ出ル 老翁 稱 音ヲ轉ジテラビラビ 運歩 色葉集 (天文)

于思 于思 申樂 三番 奏之詞也 謡曲 翁 ありさい ありさい 悦ビアリ

ヤ 十美 狂歌集 (實文) 一 ありさい ありさい 悦ビアリ 悦ビアリ 悦ビアリ

ニ 鈴ナノ井ラレヨ

うざりうざり 春地雨 (一) うざりうざり (集) 轉ニマルカ

うざりうざり 形一 春地雨 ウサシラ 氷ヤリ、多シ集リテ 能ク 融クシ、ウザリ

うざりうざり 形一 柳坂 うざりうざり (一) うざりうざり

ウサシラ 形二 胡散臭 ウサシラ 怪シウガハシ、可怪

うし 形一 羽士 (羽化シタル人) 羽者、同じ道士、僕。

うし 石炭 石炭ノ一名 (山江、栗太、新岩根村)

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

うし 形一 髮 (呻吟めく、語根活用) 昔シテ 昔シテ ウレハシ 自、ツラシ

原文
見文

ウニツ 鳥琴又ウレチにオノ降ヲ見

ウニクニサ 鳥琴臙沙(梵語 Manasa 肉髻ト譯ス)

佛書ニ佛ノ三十二相ノ一、鳥琴臙沙相ト云。佛ノ頭骨高ク起リ髻

ノ状ヲ成セルモノ、佛相、佛頂肉髻。常ニ思ヒテ鳥琴ト云ラ又、ウニツ。

翻譯名義集五、鳥琴臙沙此云佛頂頂骨漏起自然成髻故名

肉髻。祖庭事苑四、鳥琴臙沙相謂佛頂髮骨肉合成髻如

二層髮者青圓殊妙。榮花、鳥髻、體相神德、鳥琴、ニトリコヤ

カニ色、遊ノ如眼蓮、如、海、平家、五、。、盧舍那佛ウレチ高クアラ

ハレテ半天ノ雲ニカケレ 白鳥、アラタカマレサマヘル 太平記廿、。、五智ノ

如來ノ鳥琴ヲ降雨ニ潤セリ

武士塔ノ毀

鳥?

ウレシ 意一大人(一ウ)おほの約(大)條ヲ見ヨシ人、意、某ガレトシ(乃自)み

ヤレ(宮主) 沖繩ニテ王又ハ地方ノ頭ヲウラメレ(大主)ト云フ

(一) 領且ノ稱 神代紀下、大指飯三熊之大人註、大人此云于志

(出雲ノ三熊ノ地ヲ領ク主) 同下ニ、齋主、神孫、齋之大人ニ、継体紀

(三) 人、月、敬、神、禮、履、中、郎、運、前、代

瑞島別皇子 啓太子曰大人何憂之甚也田明紀二年四月、押坂部史

毛原、密告物部守屋大連曰今群臣圖卿後將斷

(三) 師又ハ學者、再稱、大人。

うさ、ゆり、^三儲弦ハをさやうハ蔵弦ハ義カ云うつ、をつ、(現)
うさ、をさ(可)懸替ハ弦ヲサユル。

古事記中(仲哀)六十一、^四彈弓、藏兵、爾自、頂髮中、採出、設弦、更

張、追擊、設弦、宇佐由、留、神功、撰政、前紀、解兵、投河中、而、斷

弦云々、出、儲弦、更張、以、傳、真、力、

うさ、の、ハ、カ、ム、宇佐使、御即位、又、八、國、奉、大、事、災、變、等、伊、時、豐、前

國、宇佐、神、宮、遺、事、告、ケ、奉、リ、幣、帛、等、ヲ、獻、セ、ラ、ル、使、一、代、一、度、奉

幣、帛、等、和、采、氏、五、位、人、命、等、其、祖、清、麻、呂、
即、伊、奉、幣、

梅、德、天皇、時、使、ヲ、以、神、宮、奉、ジ、テ、國、奉、大、功、アリ、シ、國、

一、西、宮、池、臨、時、ハ、進、護、宇、佐、使、奉、一、代、一、度、於、ハ、有、給、直、命、云、

由、身、位、時、遣、和、采、氏、五、位、指、遣、木、箱、指、遣、奉、方、朝、臣

後、給、遣、ハ、別、^一よし、み、ち、朝、臣、十、三、月、コ、ロ、不、ヒ、う、さ、の、つ、つ、ハ、ニ、取、リ、ケ、ル、

う、さ、の、も、ち、^一鯉、鼠、ハ、動、詞、名、詞、形、ナ、リ、名、義、抄、ニ、陰、ウ、名、モ、ツ、タ、カ、レ、ト、リ

穿、字、も、ち、轉、ニ、鯉、鼠、土、中、ヲ、行、ケ、ハ、土、穿、ケ、テ、上、ニ、モ、ケ、ル、意、ナ、ル、(キ、カ)

今、む、く、ら、も、ち、ト、テ、其、條、ヲ、見、ヨ、本、草、和、名、下、^九鯉、鼠、宇、古、呂、毛、知、(傳

名、抄、同、レ)

う、し、の、つ、の、も、ち、^一牛、角、文、字、(ハ、ウ、ノ、字、牛、角、如、ク、レ、バ、ナ、リ)

平、假、名、ハ、ヒ、ノ、隱、語、徒、然、苗、十、六、ナ、リ、延、政、門、院、(後、嵯、峨、皇、女、清、和、時

ニ、人、ニ、言、傳、ノ、由、歟、ヲ、タ、ツ、文、字、(ハ、ウ、ノ、角、文、字、ハ、ヒ、直、ノ、文、字、ハ、レ、)ユ、カ、

文、字、ハ、ウ、ノ、者、ハ、オ、ホ、ユ、ル、ニ、ヒ、ク、思、ヒ、マ、サ、レ、タ、マ、フ、ト、ナ、リ

うしろのときまうて 丑時詣 夜ノ丑ノ時(午前二時) 神社佛閣ニ詣テ、
特別ノ祈願ヲカケル 謡曲橋辨慶 若敷子細アツテ五條ノ天神
へ丑の時詣テラ仕リ候

うしろのときまうて 牛時参(前條ヲ見ヨ) 如ム事アリテ女ノ死(呪)
髪ヲ解キ白衣ヲ着木履ヲハキ 金輪ニ燭燭大ヲ立テ戴キ

胸ニ鏡ヲカケ着新ハ蘇檀ヲ持テ神社ナドニ丑時詣テ木并ノ樹ニ
著人形ヲ立テ新ニテ打ケツケ仇ノ念ヲ絶ムト祈ル 日記ニ呪詛ノ事

ヲ記シテ 打新於受若山天公像目

うしろのむたひ 牛額(牛食ヒテ其葉類ニルニ是ニアルカ一名)のむたひ(牛の
ひたひ) 神武紀ニ牛酒一名ふのみの深之保ノ界ナラシカ

又、シシノヒタヒ、フカツミ

(二) 草ノ名 今たがレト云其條ヲ見ヨ 石鏡 字鏡 七 石鏡内
不加豆 弥牛乃比太比 本草和名上ハ 石鏡内 之乃比多比久

佐布加都美

(三) 草ノ名 今云ハシラ其條ヲ見ヨ 石鏡草 本草和名上 サ 石鏡

藟 宇三乃比太比 後名抄ニヤ 石鏡草

うしろのむらう 牛博努 牛博努 牛博努 牛博努 牛博努

狂言此牛馬 コレハ山ヒトツアタニ住ム牛はくらう テモル

こしひきけり 牛博深(大ニシテ牛車ニテ曳キ運ハルニ意カ)

深ノ種ニ大ナルモノ 種 大芝居小屋 深ナドニシテ 田舎ニテ牛深更(鬼ノ牛)

ヒ 大土城ノ棟木ニシテ

興[△]字、興[△]興[△]鳥[△]合字ナレトモ漢三才同字ニ唱^レ時^レ隨^レ聲^レ而^レ興^レト
リ漢字興[△]興[△]鳥[△]合字ナレトモ漢三才同字ニ唱^レ時^レ隨^レ聲^レ而^レ興^レト

重

うしのみあやみ 牛歩 牛ノ歩行ハ遅キ故ニ車ノハカバカニヤリ又ニ履^ハテ^ハ一^ハ歩

家康西遊訓 百箇條ヤリ。ハ是レモ千里ノ道モ經ル牛ノあやみノヨリ^ハ一^ハ歩

クトモ

うじむし 蠟蟲 じれ^ハ條ヲ見ヨ 人ヲ與メテ呼ブ語トス

うじりもの 鶉 鶉自物 じもの^ハ條ヲ見ヨ

うじや 烏蛇 烏ノ黒キ意 カラスヘビ

うしやう 右相 右大臣ノ唐名

うじやう 鶉匠 鶉飼職 永禄七年織田信長美濃ノ長柄

川ノ鶉飼 録ヲ其ヘテ 奮鳥匠ト曰レテト傳フ

カ別
ト

うしやう 羽觴ハシ 漢書音義 羽觴杯上依羽以注酒也

酒 酒盃 異名ハシ

うしやう 右相國 右大臣唐名

うしやう 春也ウシヤウ 春也ウシヤウ 春也ウシヤウ

うしやう 春也ウシヤウ 春也ウシヤウ 春也ウシヤウ

うしやう 鳥鶴アサガキ

うしやう 迂儒儒者ノ道義ヲ失フニ墮ルテ世情ニ迂闊ナルヲ曰フ

うしやう 鳥ウシヤウ 鳥ウシヤウ 鳥ウシヤウ

うしやう 鳥ウシヤウ 鳥ウシヤウ 鳥ウシヤウ

一檄

うしやう 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ

檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ

檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ

檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ

檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ

檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ

檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ

檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ

檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ

檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ 檄ハシ

うをきりふ 薄切斑 切斑 伴見

うをくす 薄葛 葛餅 伴見

うをきみわし 形一薄 呼葉 十三ワルケナリ

うをくまろ 自口 薄溜 一溜 屋まろ 義ナルヘシ

(二) 膝ヲ折リ立テ、居ルニヤカム、雪異記上、カサキ、薄ウスケル 石義

抄、泥ウスケル 薄葉 頰部 上、薄ウスケリ

(三) 前足ヨシテ、ヌル (獣ニ)

うをくもり 薄曇 日薄雲ニ似復レテ目曇ル。物言ク、春上、今様

うをくろし 形一薄黒 濃 濃ク黒シ。肌ニあさぐるレ

夕ツ 薄曇 夕ツ 薄曇

うをけけい 薄粧 真キヤク 薄假粧 同シ

うをけけい 薄氷 薄ク張ル氷也

うをざしき 薄彩色 薄代指 薄代指 彩色 薄代指 薄代指

うをざむし 形一薄 寒ニ染ナリ

うをさや 薄鞘 薄ノハ 伴見

うをさむ 自口 薄 八ノさむ 薄クナル

大木十三 朝和稀ノソトシルシハナケレト、うをさみワ三輪 杉葉

うを、たみ 薄置 又薄置 果シテたみ今こをへり (たみ、降ヲ見ヨ)

今物語 或殿上人云 中ノ枝 (枝カ)ニサツラヒテ寝殿ナル女房ニ云 此

朧月、イカガニ候ヘキト云ヒシリヤレバ 女房返事ニナクテ取リアヘ内ヨリ

たみヲ押出シテリ (うを、たみナリ) 朧月、思ハシクシノ、ナキト云フ古歌

(意)

うを、たみ 薄置 淡キイロリ。

うを、ひき、た 白檀 枝ノ葉 枝ノ葉 枝ノ葉 枝ノ葉 枝ノ葉 枝ノ葉 枝ノ葉

伊豆、唐紅、授ケト米カニスカヌト云 廻シヨ竹ノカル白 上経、矢

那、五身兵衛カニ立テト白 遺木 押サヌニマル白

うしろ、まさ 後卷 身方ヲ攻ル敵軍ヲ其背後ヨリ取巻キテ攻ル

ハ、ウシロ、マ、後卷 赤松再興記、浮田能ヲ外三石城為後巻也

張ス 後援

うを、ひき、た 白檀 枝ノ葉 枝ノ葉 枝ノ葉 枝ノ葉 枝ノ葉 枝ノ葉

うを、たみ 薄置 淡キ 粉ニ名ノ、薄彩色、淡粉

うを、み、り 薄置 ヲ玉キ、モヨキ

うを、ひ、ん 薄置 丁髷髪ノ信トウノ名髪ヲ毛ヲ剃トサケタルモノ、厚髪

髪ニ對ス誰袖海(元祿) 昔、候今、髪奴ト成ラウモ髪賣ノ一節

心キ身ト思ヘト (為偏入奥)

うを、わた 薄置 着物ニ薄ク編チ入ルモノ 宇治若造一ツウをわたノ封

うき、たけ 紅茸 茸一種、高ヤ一三寸、蓋ノ上面クホミテ、似如シ毒アリ

類聚抄卷之三

杯邊の用法 紅茸

うきつへら 薄片 物ノ薄ヤチ不足ニ思ヒテ云フ俗語 杯邊

うきへら 板テラキニエセル (三) 奥深カニテ、浅薄 「うきへらナ

世間

うきどろ 仁取 赤ぬどろニ同ジ

うきどろ (急) 廿之居ノ太鼓打ニ云フ漆どろとろノ解ヨ見ヨ

うき、に、く、ろ 薄肉色 肉色、濃カニテ、色、俳優ノ顔、假粧ナドニ云フ

うき、に、く、けり 薄肉刻 浮刻、高カニテ云フ

うき、に、び 薄鏡 鏡色 浅キ

うそ、ぬきみ 薄紙 彩色ノ

うそ、のりし 形一 薄紙 木片 鏡板 漆

うそ、ほた 為端佛具 銅花被 薄チニ造リタル

後撰表回年(寛文) 一目ニ見テ食ハシムルニ是ハたニヤタテアル所ニシカキ

うそ、はま 薄紙 漆色ノ法キキ 為花漆ノ為花衣

うそ、ばん 薄紙 膳名 漆カクハシラ(三方ノ條ヲ見ヨ)

うそ、へう 護田鳥 斑ニキテニシテ 斑ニキテニシテ 護田鳥ノ羽色

うそ、きり 斑ニキテニシテ 斑ニキテニシテ

うそ、用ル 斑ニキテニシテ 斑ニキテニシテ

うそ、カ 斑ニキテニシテ 斑ニキテニシテ

うせろ 自口 鼻 此動物活用法 姑ク口段トス

動物也 鼻ニシテ 鼻ノ(鼻トシテ) 傳名抄十八 三 鼻 字世流 以鼻

鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ)

鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ)

鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ)

鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ)

鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ)

鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ) 鼻ノ(鼻トシテ)

テ「十」信共ノ國マテハ海山隔テ、遠ケレド心通ダシ直カスツトテ到
 ルトコトハ聞ケト占ヒケレバ啼泣シテ涙ケタマフトアリ正ト考ニ、平治物
 誌鎌倉本ハ「巫」に細キヤカシ歌占、ツマ仕テ申ケルニトコソ「淡マシケ」
 (三) 婦女ヲ無シニ百人一首ノ草依テ用キ其見生シタル歌ヲ以テ吉凶ヲ占
 フモ歌占ト云テ(梅園日記一)

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

ナカメ花斬
 雲袖マシ

うたかた (意) 泡沫ハ空形轉ルベシ 傳持カキ 碑 (たふて) 中宣ニ

シテ國ニ (一) 雨水溜ル上ニ生タル泡、ニハ、ニナツホ、ニツホ、ニツホ、

俵名抄一ニ「津雨雨潦上沫起、若露得盆也」うたかたハ乍生シ乍チ

消ユルニ因テ多クハ水ヲ消ス消ユルニ因テ多クハ水ヲ消ス 後撰、水ノ面ニ

浮キテ漂フうたかたノマダ消エ又間ニ変ル世ノ中ニ赤津世門集、雨降レ

バ水ニ浮ルうたかたノ久シカラズ吾身ナリケリ

うたかた (二) 割 雲時ハ泡沫ノハナク消テ間モノ意 (三) 曾シモスエシノマモ

一万七廿五 昔ノ車唱ノ山吹宇多智多君カキ觸レス花散ラメヤ

源撰柱 五 うたかた人ヲ思ハサラヤ (三) 危々、アアケニ。万七十八、大

船ノセニ居レバ天雲ノ手著モ知ラス歌方我ガ夫 述仙屋 著

万七 廿五 廿六 廿七 廿八 廿九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十

時未又相著死アハトトオモハリキ（泡沫、乍生、乍消、故ニ未又と云フ）

うたかた 他四 抱ウカ抱カクノ教讀 抱ウカマフ。

垂仁化五年の月、皇后令ウカサシテ懷抱皇子。

うたかたはりう歌川流 浮世縁ニ返歌川豊春ヲ祖ハス歌麿名ア

[Faint handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side.]

△ナリニ
ナリニ
ナリニ

[Faint handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side.]

神功伝
懐妊王

天皇以唱
鑄射其
猪之時

うたぐ 謡 踏 しりうたぐ 伴 見

うたぐ 他四 抱 ハ腕纏くの内云云 特ニテむたく いたくモモル

いたく 同ジムダク、ムダク、神本他 常懐 憤 鬱 雲 異

記下 第九 十三 抱 于田文 名義抄 抱 ヲタクイタク 撰集抄

身ヲマヤカニシテ 鞠ヲうたき侍ル

うたぐ 自四 喧嘩 今ハ聲 (うたぐ) たく 鳴く 眞だん いたたき

いたたき (抱) いたたき へたり (陽) 猛り吼子 又あたく

古事記下 (相違) 三十一 其猪也而字多歧 寄 来

故天皇畏其字多歧 (名詞) 坐 榛上 播磨用爪土記 訛 坂

郡都麻里 狩於此野 一猪 負矢 為 阿多岐 故曰 阿多加野

うたせ、あみ 打 瀬 網 地 曳 網 一 種 小 舟 網 ヲ引

うたせ、きヤウ 歌 詠 伝 (詠 詠 傳 見)

詠 伝 ニ 竹 節 ヲツケ 由 ナキ 事 ヲモ 加ヘテ 詠ルモノ 一 代 男 (自 和) 二 江

尾 宿 誰 レトハ 知ラズ 詠ヲ 隱シテ 連 節ニ 歌 詠 伝 アレニ 聞ユ

うた、やん、ブツ 歌 合 併 (詠 詠 傳 見)

詠 伝 ニ 竹 節 ヲツケ 伏 籠 ヲ 打 ツ、 歌 フモノ 二 舊 歌 集 (寶 永) 小

歌 竹 節ニ 申 ス 念 併 籠 山 カ 井 (寛 文) 及 蛙 聲 ヤ 殊 勝、 歌 合

併

千代丸

うたひヒクニ 歌比丘尼 一季のひんに降見ヨ

うたひひん 謡本 謡曲ノ文ヲ書シ記シテ書物

うたまね 歌也 古人ノ真蹟ノ和歌巻物ナリシテ数寸ニ切り取テ手鑑ニ貼リ

ハミナトシタモト 終 経文ナルモト 其ノ萬葉切ノ野道ハ本阿弥切

(本阿弥切 校旧瓦) 能倉ナド仕立ニシテ 其ノ角倉切(白倉切旧瓦)

又經文ナルモリ 能倉切ニテ 嵯峨ニテ 衣箱ノ洗草ニ任リ

うたかみ 歌代衣 (二) 蛙ノ咽喉ニル 特異ナル 機関ノ鳴ク時 脹ル

(三) 歌ノ詠草ヲ挿シテ 具ノ名 歌ノ作風ヲ 歌口ト云フ 古事集序ノ水

棒ノ蛙モ イツレカ 歌ヲオモソクシテ ヲリテ 名ツケシナルヘシ 大高檀依ニ作ル 高

サニ尺ニ寸 幅ニ七寸 上方ヲ打返シ 水引又ハ 須絛ニ綴ゲテ 柱ニカク 左ノ間キテ

詠草ヲ卷キテ 横ニ挿シ 入ル表ニ 歌代衣ヲ 歌イタツラニ 鳴ク蛙ノ 歌ぶニ

オロカニル 口モ思ヒ入レバヤ (夫木抄五蛙ノ 歌イタツラニ 撰ル) ト書キオクナリト

ニ云フ (松屋筆記ニ 海録ナク 好古堂法ニナ)

ニ云フ (公家衆ニ 和歌ヲ専門トスル 家竹舟)

所基所ナドニ例ナリ)

(古事集序ノ水ノ 鳴ク管水ニ 接ム蛙モ イツレカ 歌トアルナドモ 名ツケルカ)

うたへのつぎ「刑官」(新義) 有る也

まかろしや(刑官有) 高じウタハ冬スツル、天武化下(刑官) 持統化

刑官有

うたへふみ 新文 訴訟 昔々池の花 許仕。後古書讀一「高き机ノ

上ニうたへふみ相ノ多ク置カレリケレバ、百ノ民百姓ニテ申文ヲ持テリ

テ此相ニ入ル

うた、まゝら「歌枕」ハ詠歌、枕言ハ意ナル也 (二) 歌、詠ニ入ルキ料トスル詞、

古書古歌、成語源玉草 萬草子歌枕ヨク

内見ツケレ其申、詞ヲ取ルルニ新撰體、古ノ人多ク歌枕

ヲ置キテ末ニ思フニナムアラレケル (破記漫筆七) (三) (四)

(三) 專ラ詠歌ノ料トスル名所古跡、大鏡、五ノ十州ノうたまゝらニ

名アガリタル所ヲトテ書キツ、マサラニ無名抄下、名所ヲ取ルニ故

實アリ國々ノ歌枕ニ數ス知ラズ多クドモ

うた、まゝら「歌舞」 歌ト舞ト、天武化下、奏獲マ、同下

置酒以賜

うた、め「歌女」(二) 雅樂寮ニ属シ古俗ノ歌舞ヲ舞ル女人、天武化

十四年九月、凡諸歌舞、傳已子孫、令習歌由、令雅

樂寮、歌女一百人、後紀、近習、廿年、雅樂歌女百人

(三) ウタウタヒ、アソビナ 歌女、名義抄、俱、ウタヒ、ウタメ

うた、を 歌男、うた、め、傳、見コ

うちあぐ (二)

両岸ヲ打ち鳴らす、酒ヲ飲ニ集ム時ニ九事ヲヤサテ酒宴スル意トナル

野言化 別名、別位前 新喜喜、酒酣ニ、手拍子、拍上賜、釋化、拍

上賜者、酒酒ニ義也、空穂、五原君、七日七夜、酒宴シテうちあけ遊ブ

華衣みほめ夢、酒々飲、割リテうちあけくしル、宇治拾遺、一酒ヲ井を遊

フアリ若云、いけせん、柏子ノヨケニ酒ニケレトサヤレト、走出テ、儂ヒテム

うちあけ 三 興行物仕舞。開場、芝居

木敷打終ん是ナリ

うちあけ 他下 打場 (一) うちあぐノ口語 (二) 興行物仕舞ス太

鼓ヲ打終ん是ナリ 開場、芝居ヲうちあけ

うちあぐ 一 挂里古ハ、武官、礼服後ニ大傷、時ニ用ニ畧シテ

ニ上、裱、二幅、緋、錦、小、西袖、袖、背、打掛、裏

純、上、着、兵部省式、挂甲、三代、御、享立元慶、八年、二月、廿日

挂甲、冒、額、鎧、左右、皆、存、各、二百、餘、傳、名、抄、三、ハ、裱、襦、兩、襦

其、一、當、胸、其、一、當、背、也、字、名、加、竹、日本、武、具、原、任、二、分、平、目、ヤ、

在、武、具、原、任、也、字、名、加、竹、日本、武、具、原、任、二、分、平、目、ヤ、

ニ、カ、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、

ニ、カ、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、

ニ、カ、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、

ニ、カ、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、

ニ、カ、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、掛、甲、文、様、

△即千人之名外ニ立ルル家名ヲ人民集植スルニ因テ識別ナリ
 我カ皇室ニ姓オシメサズ神代ヨリ一系ニシテ給キルヤウナ
 今ハ亦萬國ニ冠クテ知ルニシ

白行出ノ事ニ關シテハ
 白行出ノ事ニ關シテハ
 白行出ノ事ニ關シテハ

類聚三卷拾十二

一、古ガミ 一、氏神 二、己ガ氏ノ先祖ノ靈ヲ祀ルル神、其藤原氏ノ春日

神社大草野神社、橘以ノ梅宮平以ノ平野神社ト是ナリ 伊勢知
 護ノ事、昔ニ條ノ后ノ云ニ氏神ニ詣テタマヒケルニ(右ニ藤原氏ニテ大

原野神社ニ詣テタマヒケル) 寶平七年(右ニ藤原氏ニテ大

何廣光祖字祀 日神子孫子氏ト云

天照大神、神子孫ニシテ

其里ノ氏子ト云 是レハ真ノ氏

又地子ト云、又地子ト云、又地子ト云

世人以神事ヲ我所傳ニ謂ニ云、其

大鏡七
 春日日明斗
 云ニ此勝以、
 湯以神ト云

うちがま 内鑢（一）かき（二）わにあし（三）健（四）

うちがかり 内借（一）らちがレ（二）健（三）

うちきり（一） 打（二）きり（三） まら（四）（平）（五） 同（六）

うちきり（一） 打（二）切（三） 切（四）る（五）と（六）云（七）フ（八）同（九） 刺（一〇） 終（一一）ト（一二） 終（一三）フ（一四） 終（一五）結（一六）

うちきり（一） 打（二）切（三）（二）ウチキル（四）（三）チキリ（五）シマ（六） 終（七）結（八）

うちきり 内廊（一）く（二）や（三）健（四）

うちきり（一） 打（二）屈（三） 名（四）ず（五）（屈）と（六）云（七）フ（八）同（九）

うちきり（一） 内（二）巻（三）者（四） 打（五）女（六）屋（七）引（八）手（九）茶（一〇）屋（一一）料（一二）茶（一三）屋（一四）ト（一五）シ（一六）女（一七）

うちきり（一） 女（二）藝（三）者（四） 外（五）多（六）招（七）（踏）（八） 對（九）シ（一〇）テ（一一）シ（一二）

うちきり（一） 打（二）切（三）（二）ウチキル（四）（三）チキリ（五）シマ（六） 終（七）結（八）

うちがた子（一） 打（二）刃（三）（敵）（四） 打（五）合（六）ッ（七）刀（八）義（九） 鞘（一〇）馬（一一）手（一二）差（一三）下（一四）ノ（一五）刺（一六）ス（一七） 鑢（一八）

ルハニムフ後（一）モク（二）ク（三）ク（四）ク（五）

うちがた子 打刃（一）（敵）（二） 打合（三）ッ（四）刀（五）義（六） 鞘（七）馬（八）手（九）差（一〇）下（一一）ノ（一二）刺（一三）ス（一四） 鑢（一五）

（二）刀、鑢（一）アリ（二）ナ（三）長（四）サ（五）一（六）尺（七）短（八）片（九）手（一〇）打（一一）合（一二）ッ（一三）モ（一四）ノ、 齋（一五）宮（一六）率（一七）式（一八） 打（一九）刀（二〇）子（二一）二（二二）枚（二三）

刀子（一）十（二）枚（三）十（四）枚（五）石（六）身（七）廣（八）三（九）寸（一〇）一（一一）枚（一二）長（一三）一（一四）尺（一五）廣（一六）一（一七）寸（一八）五（一九）音（二〇）身（二一）鏡（二二）十二（二三）建（二四）久（二五）三（二六）

年（一）正月（二）廿（三）日（四） 標（五）中（六）葉（七）一（八）尺（九）短（一〇）打（一一）刃（一二）ニ（一三）著（一四） 洞（一五）集（一六）九（一七） 腰（一八）内（一九）引（二〇）大（二一）三（二二）寸（二三）子（二四）

打（一）刀（二）ヲ（三）按（四）キ（五）テ（六）（三）後（七）ニ（八）長（九）ク（一〇）作（一一）リ（一二）テ（一三）尊（一四）ヲ（一五） 鑢（一六）刀（一七）ト（一八）云（一九）フ（二〇）モ（二一）、 四（二二）單（二三）ニ（二四）か（二五）た（二六）る（二七）ト（二八）モ（二九）云（三〇）フ（三一）

刀（一）脇（二）差（三）ヲ（四）大（五）小（六）ト（七）云（八）フ（九）其（一〇）大（一一）ノ（一二）刀（一三）ト（一四）云（一五）フ（一六）モ（一七）、 是（一八）レ（一九）ナ（二〇）リ（二一） 長（二二）サ（二三）二（二四）尺（二五）八（二六）九（二七）寸（二八）ナ（二九）リ（三〇）

限（一）リ（二）ト（三）大（四）高（五）鉾（六）草（七）子（八）、 二（九）尺（一〇）ガ（一一）リ（一二）ナル（一三） 打（一四）刀（一五）ヲ（一六）ナ（一七）メ（一八）字（一九）ニ（二〇）サ（二一）ス（二二）マ（二三）ニ（二四） 室（二五）田（二六）日（二七）池（二八）、

九（一）、 二（二）尺（三）身（四）ノ（五） 打（六）刀（七）ニ（八）テ（九）云（一〇）フ（一一） 走（一二）リ（一三）カ（一四）、 一（一五）尺（一六）ガ（一七）リ（一八）ナル（一九） 打（二〇）刀（二一）ヲ（二二）ナ（二三）メ（二四）字（二五）ニ（二六）サ（二七）ス（二八）マ（二九）ニ（三〇） 室（三一）田（三二）日（三三）池（三四）、

ヲ掃ヘテ不レ竹
藝ハ贈後
贈ハ縛フメシ
作リサハ御事
ト置キテスナカ

アエ

大草子(重出付込)上、打刀ヲつばカトス

うち、カハ 打交ハ行き文ハ同心 林祥ノ事ヲ打處ニシル

万十立ニテ、轉辰祿ノ字知可以合ニハハ一ニ、字知可信合ニネトモトナル

ハ、父ノ下ニ段治用モルテ、新ニ姓三、泉川下ルト舟ノうちハニ段

瀬ゾ著キ、打刀ノ係ハ見ヨ

うち、カハ 打交ハ行き文ハ同心 打刀ノ係ハ見ヨ

三、猿犬ノ頭ハ、木葉ノ腰ヲ、後世ハ、猿犬ノ首ノ、

木葉ノ腰ヲ、後世ハ、猿犬ノ首ノ、

木葉ノ腰ヲ、後世ハ、猿犬ノ首ノ、

木葉ノ腰ヲ、後世ハ、猿犬ノ首ノ、

名レナル 三、猿犬ノ首ノ、

甲陽軍鑑

二十九 侍大将馬副ノ者持ツ三色ハ、又ハ馬ノ、

三、猿犬ノ首ノ、

三、猿犬ノ首ノ、

三、猿犬ノ首ノ、

三、猿犬ノ首ノ、

三、猿犬ノ首ノ、

三、猿犬ノ首ノ、

三、猿犬ノ首ノ、

三、猿犬ノ首ノ、

三、猿犬ノ首ノ、

三、猿犬ノ首ノ、

三、猿犬ノ首ノ、

三、猿犬ノ首ノ、

三、猿犬ノ首ノ、

(三) 打刀
家ノ事
侍ノ見

原文ニ
アタリ

うち、ソ、 自口計入攻ノ入、袖巻ヒカケル 袷衣袴

うち、ソ、 他下ニ打入(三)入る(下二段)ト云フ同ジ、 袴箱ニうち入れた

(三) 躰ケツクス。ソキコム。イリアケル。空穂た。た。心ヨロシカニ又博打不孝

ノ者ニテ身ノ装束ナド、此皆ニ七レセムカタナクセ就リ長スルヲ

うち、お、(裏) 打置、おくと云フ同ジ、 袴箱ノ掛

一、五、ハ、赤駒ニ下鞍字知意仗

うち、か、し、内隠、か、し、ノ、係ヲ

上書書札ノ帳、
シラベ

うち、年、打掛、(三) 道行時衣服ノ上ニ被リ着ルモノ、道服ノ後

羽織、幸若、若木、高館、ハ、草鞋、取、上、着、花、打、ハ、又、イ、テ

ハト、様ヲ、カマア 花田、目録、津、メ、テ、袖、口、ホ、ッ、ク、裾、廣、キ、

同、シ、姿、着、カマア 花田、目録、津、メ、テ、袖、口、ホ、ッ、ク、裾、廣、キ、

うちつるル 自下ニ「打連」数人共ニ「打連」と云フニシタツ 同行

うちて 「討主」討人、殺す人。

うちてのいさ 打出せま「うちて」係ヲ

うちてのいさ 打出せま「うちて」係ヲ

うちてテテ 「凶寺」一、名様ノ其先祖ノ名ニ其以人ヨリ 殺すル語、凶寺ニ對シ

其以木ヲ 檀越又檀越トシテ 凶寺ニ對シ其以人ヲ 檀越又檀越ト

トシテ藤原氏ノ高都興福寺和名以高尾社被寺、等是ヨリ

日中後紀、上、延暦廿五年二月、是時諸寺檀越之名載在該記不

可輒改而異人多以凶寺假號日推者詐稱檀越云々

Blank page with faint bleed-through text from the reverse side.

盛衰記 廿四 南都令再授矣 興福寺 是法海公之所創也 唐氏里代
 一氏寺也 字和抄 土師寺 辨道明寺 土師寺也 俗為菅原本姓
 菅原寺也 盛衰記 十八年 依勅使 精舍ヲ建立シテ云 妙法寺ニシテ
 之ヲ故ニ此寺ニ和名ノ氏寺ナリ 光仁帝 和名清麻呂ニ勅シテ創立アリシ也

此處に...
 此處に...
 此處に...
 此處に...
 此處に...

うちけり 意 打浦一ツト云ヒシ女侍ヲ

うちく 打粉 砥粉ヲ布ニ圍ッ包シテ刀ノ身ニ粘リテ打ツテ拭クモノ

うちくま 他四 打込 三 打入ル、突入ル、三女、深ク思ヒ入ル、執着ス

うちさぶら 内侍 さぶらと云フモノ

うちす 他 打考 八打 意ナシ 為ニ同じ 為ス

枕草子ニ 欠ヨシレテ大鏡中 物オホエヌ名付傳 打ちして

うちあが 次 一 打ちあが 同シ

うちあ 打捨 軒接 同シ 大友世履記 甲首 二百五十三 其外ノチ

其外ノチ

うちのみや 甲斐内之宮義 中宮 後宮

重仁紀... 當納旅庚以... 安閑紀... 極庚

うちのみや 内官

うちのみや 内場 一 二 (三) ヲ見ヨ。

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

うちのみや (名) 襦袢 八上 打掛 着る 服 襦袢 掛衣 合字 襦

貴婦人ノ服ノ名 重 紗 襦 袢 二ケキ

貴婦人ノ服ノ名 重 紗 襦 袢 二ケキ 後名 紗 二九 襦 宇知岐 婦人

上衣也 儀式ノ時 此上ニ唐衣及ビ着る 着る 三領 五領 七

領ト重ナク着ル 其下ナルヲカセウチギト云フ

最上ナルウチギハ 紅 打衣ニテ下ニ重ナルハ

其ニ重ナルニ次々弟ニ上ルヲ短クス 後ニ云フ 五衣 是ナリ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

うちきく 事 打洲 (八打去、長ナト) 聞くと云フ同シ

うちたぬ 事 打絶 絶也ト云フ同シ

うちのみやけ 内官家 (内、内附、意、皇極他、越辺、坂、数、千)

内附 みやけ 其條見 神功皇后 三韓ヲ征服シタマヒテ 其地ニ

建テ、管轄セシメラレシ官府。海ヲ渡リ、ユクニ因テ渡成ナカトモ云フ。

神功撰政前紀 因以定内官家 是所謂三韓也 継体代

高麗 百濟 新羅 任那 等 毎國 初置 官家 為 海表之藩 屏也

十景記 中 (一) 百濟者定 渡成ナカトモ云フ

faint background text and a red circle on the left page

うちばぐく 事 打羽搦 はぐく (羽搦) ト云フ同シ 其條見

うちけむ 事 打埴 はむ (埴) ト云フ同シ

うちひさす 地 内日 刺 埴 現日 約テ 宮ニ 高々 秀テ 物障リ 現ニ

日光 指シ 刺ヤケ 意ニリト云 うちはし (打橋) 又フシはし (移橋) 約テ 京

宮ニ 又都ノ地 万十 五 打日 刺 官路ヲ 人ハ 満テ 行ケド

同十三 内日 刺 大宮 付ヘ 同二十三 宇知 比 左 渡 都ノ 人ニ

同十三 内日 指 京

同十三 打又 津 三 定ノ 原 同十四 宇知 比 佐 都 美 夜 能 瀬 川

うちひさす 事 うちひさす 條見

うちひさす 事 打類 ひとむ (類) ト云フ同シ

うちひさす ト云フハ 花ノ 相 通スルヲ 以テ 也 (消)

うちびと 氏人 同じ氏の人。万六の物部八十人。本傳書云「五

書者桓武天皇之後王及大江和等氏人並誅滅者

天武化下^{三三}諸人等名定可以上者而申送

著阿蘇^{神祇}。仁安三年四月廿七日。伊豫信陰朝臣

氏人十人

うちびと 内人 一内親レ事奉ル由名ケ上云 伊勢大社宮ノ神祇社

真次^{ナリ} 皇大社宮儀云儀 社直一人 大内人三人 物部十三人 物部又

十三人 小内人十三人 社後撰十社 柳モテハツノ石坪路ニナラシ君

ヲ新ル内ノ名人

...

うちばら 内掛 内人等ヲ掛ニ任スルニウケタレ

うちまき ^散 散^米 陰陽師ノ被^レ 糶^米ヲ撒キ散ニス、福澤

以ノ神ノ入り奉ム^ニ 和^レ 大^ニ 屋敷豊宇美姫

命^レ 註^レ 俗謂^ニ 宇賀取美多麻^ニ 今世^ニ 毒屋^ニ 以^テ 辟^ル 木束^ヲ 置^キ 戸邊^ニ 乃

以^テ 散^ル 屋中^ニ 之^ノ 數也^ト 空^ニ 懸^テ 至^リ 君^ニ 被^レ ちまき^ニ 米^ヲ 要^ル 源^ノ 横^ノ 笛

四^ノ 若^シ 累^ニ 寐^ル おび^レ 散^ル ナド^レ 三^ノ タリ^カ レキ^ニ 昔^ノ 日^ノ 世^ノ 中^ノ

漸^ク 所^ニ 頂^ニ 今^昔 十四^ノ うちまき^ニ 米^ヲ ツカシ^テ 投^ケ ケケル^ニ 此^ノ ワ

丸^ノ 鬼^ト モサト^シ 失^セ ニケリ^ニ (三) うちまき^ノ 米^ヲ 散^ル 散^ル 散^ル 字^ノ 鏡

集^ル 權^ノ 此^ノ 紫^ノ 日記^ニ 中^ノ 言^ハ 湯^ノ 所^ニ 頂^ニ うちまき^ノ 雪^ノ ヲウ^ニ カリ^テ 後

世^ノ 神^ノ 社^ニ 詣^リ 神^ノ 前^ニ 米^ヲ 撒^キ 奉^ル リテ 湯^ノ 散^ル 供^ト 三^ノ 無^レ 礼^{ナリ} (三)

米ノ女房詞

うちぎせ 打雑 雑で合はれて 混合

うちぎせのけし 打乱匣 (髪を打乱リテ入意)

(三) 櫛笥ノ懸籠 婦人妝許ニ置キ臥シ花時垂髪 端ヲ其内ニ挿スルコト

用サルモノ 女中心得之書 (文明) 髪ヲサケテ上襟ヲ着時 枕ノモトヘウ

ちみたれヲ置キソレニカモシテ置スル

(三) 用ヲ轉ジテ手巾ヨ容シテ用トス 傳名抄十四ニ澡浴具「巾箱

盥手巾之器 俗云打乱匣 源 續合

うち元はら (枕) うちよはら (俵)

うちのみみ 氏上ハ長長 (こちのみみ) 見ヨ

うちのみみ (内人) 妻ガ他人ニ家レテ其夫ヲ科在律

うちのみみ (内命) 又やぶ (命) 俵

うちのみみ (内人) 俵

うちのみみ (内者) 俵

うちのみみ (内社) 俵 園本替 昭和十一年 大原野鷲之

うちのみみ (社) 俵 俵 俵

うちのみみ (打延) 雁首吸口打延 (作ル義) 打ち

煙管 全体ヲ銀銅又ハ鉄ニ作ルモノ 膝の小手巻 (寶曆) 首ませ

うちのみみ (者) 十二三モアリ

うちかぎり 内懐 家内義 ざしきのけり三向じ

うちかはるる 自ら 打延

うちかやし 形二崎嶇連遭 一嚴捷し 轉ミアルヘキカソくしむうつしむ

(憂) あつまる あちさる (棠陽花) 世多難ナリ

行自岐シカカレ 大業起リテオスル 困難ナリ 行クニ 峻シクナヤマシ

經化 天平沙汰後元年二月 詔 平ケキ時 仕マツルコト 誰シノ人カ仕マツルカ

アラム カケル牛(宇治)方 夜伎時 命ヲ惜シラス 貞シク 淨キニモチテ 朝廷

ヲ以テ 獲リ仕マツル人ヲ云ニ 天治字 鏡ニ 崎嶇路 難也 傾倒也 宇地

波志 遊仙之屋 逃遭 嗟運命之途

うちばたさ 一字治怒 山城周宇治川 層々 形大ナルヲシテ名アリ

うちわし 打を基ヲニ番 双方一勝一敗ニテ 勝負ナシトナル

うちわたり 内辺 大内内裏 袂衣 四ノ中 内わたり 名仕ヘヨリ

モマツル 卷リトヒタヒ

うちわもみ 内輪掃 家族親族身方同志 アラキヒ 内証

うちわ 他 打刺 下 刺レ 打明ケル

うちわね 内輪

うちわ 内 うちうら 約 内トスラニ内レ

うちみ 打見 見 表面ノ見 外見

うちみ 打見 見 見トスラニ内レ

うちをさめ 打納 (太政官ヲ打テ止ルナリ) 演ト家ナト 行ヒ終ルニ、ウチアケ、ウチタレ

千秋集 廿三頁

玉葉命珍
貴也美也
重也

うづ 珍一八嚴ト直ス。うをいを(真)ニたく、たく(抱)

高クハ嚴ニキテ、中真ク愛テタキテ 神代紀上九 月 貴朝伊井

諸母曰吾欲生 御宙之珍子 珍此云于國 木殿奉祝御

新百葉祝の 宇野ノ御皇ノ 万六 天皇朕ガ宇野ノ御手以テ

！橙ヲ担テテノ 燈カキタマフ

濁

うづいよ 撫逆 イフセキテ、糸ノノサケテ。

うづいよびやう 撫逆長病一キヤニ

うづいよ 撫逆 猶使 猶御ニ同ジ其條

うづかり 副ニ浮ハニカク便ヒたひつたり ウカトウカウカ

(大治)

髪束髪要
妙ハ打乱髪
長一尺一寸
共口定私九
寸五分分
深一寸云々
髪上時科
直表時録
又云々

うちみだりののはふ 一打乱箱ハ乱髪ヲ盛ル意ニ

三 櫛櫛ヲ髪子。婦人結髪時 櫛は下盛リオクニ用カレ

源 鎌倉ニ、其日ニナリテエナニス 沖袋ヒドモ 御櫛ノ箱、またみだりのけ相云

心コトニヤ、人サタマヘリ 乱髪情、うちみだりの箱、髪上ニテハ 髪ヲ梳ル

時打テミダシハハハヤク、若トセル也 女中心海之書(文明) 髪ヲサゲテ時

タテ時ハ枕モトヘラうちみだれヲ置キソレニヤカシテ置クべシ

(三) 沐浴ノ時 髪 手巾ナドニ置キカヨリ 移ルカ専ラ手巾ヲ入レオク

田ト丸巾箱 倭名抄十四ニ 湯浴具、巾箱者盛手巾之器也 俗

云打乱一匣 (三) 後ニ淺キ箱ノ蓋ナキ 漆塗ノ物ヲ作り 自鼻依入ナド

懐中ノ物ヲ盛リオク器ニシテ 置ルニテみだれ箱ト云フ 女書讀記見

種本有將身ノ亂令整算用（元禄）七、乱箱（三才生）

うちむさう 内無双（むさう）無双（條）

日抄

うちよき（秋）打縁流（ハ）打（エ）振（ス）轉（ル）日（目）（足（テ）結（ト）あ（ハ）歩（フ）ぶ

あよぶ（駿河）駿河（ノ）新橋（ル）河（ニ）東（ノ）吉田（ノ）川（ノ）コトル（ベ）ク急流（ニ）水（ヲ）振（ス）振（ル）日（目）

ア九（ベ）シヤ云（フ）大神（ノ）早（ノ）村（ノ）江（ノ）葉（ノ）真（ノ）吉（ノ）義（ノ）地（ノ）解（ノ）今昔（ニ）二十（ノ）朝（ノ）ヨ（ノ）江（ノ）

也（ハ）行（ク）水（ノ）心（ハ）うち（エ）き（キ）よ（キ）き（キ）地（ノ）（柳（ノ）島（ノ）ひ（ノ）よ（ノ）り（ノ））（朝（ノ）黄（ノ）も（ノ）よ（ノ）志（ノ））

駿河（ノ）地（ノ）記（ノ）又（ハ）うち（エ）き（キ）。及（ニ）三（ノ）七（ノ）ナ（ノ）ヨ（ノ）ミ（ノ）田（ノ）少（ノ）風（ノ）打（ク）縁（ノ）流（ノ）駿（ノ）河（ノ）内（ノ）

同（ニ）二十（ノ）「字（ノ）名（ノ）江（ノ）流（ノ）流（ノ）駿（ノ）河（ノ）山（ノ）録（ノ）」

うちみ 打肉（魚（ノ）サシ（ニ）ツクリ（ニ）京（ノ）和（ノ））

うちき（車）打取（取（ル）ト云（フ）同（ト））字（ノ）必（ノ）於（ノ）邊（ノ）三（ノ）六（ノ）ナ（ノ）カリ（ノ）女（ノ）アリ（ノ）ケル（ノ）カ

虫（ノ）うち（エ）き（キ）リ（ノ）テ（ノ）居（ノ）ケル（ノ）ケル（ノ）カ

うちき（他（ノ）カ）討取（一）攻（メ）テ（ノ）奪（ル）取（ル）敵（ノ）同（ト）一（ノ）三（ノ）軒（ノ）子（ノ）テ

殺（ス）敵（ノ）

うちき（磬）打鳴（ハ）義（ノ）子（ノ）（鳴（ル）條（ノ）見（ル））ウ（ノ）チ（ノ）ナ（ノ）ラ（ノ）磬（ノ）名（ノ）義（ノ）抄（ノ）磬（ノ）

うちき（重）打鳴（ハ）子（ノ）（鳴（ル）條（ノ）見（ル））

うちき（磬）打唱（ハ）義（ノ）子（ノ）（磬（ノ）一（ノ）種（ノ）其（ノ）大（ノ）匣（ノ）薄（ノ）キ（ノ）石（ノ）田（ノ）打（ク）清（ノ）高

中（ノ）細（ノ）音（ノ）薄（ノ）セ（ノ）シ（ノ）モ（ノ）壺（ノ）器（ノ）名（ノ）銅（ノ）造（ル）形（ノ）長（ノ）方（ノ）形（ノ）モ（ノ）折（ル）多（ノ）面（ノ）吹（ル）

重（レ）片（ノ）假（ノ）名（ノ）ハ（ノ）字（ノ）形（ノ）オ（ノ）ナ（ノ）ス（ノ）架（ノ）懸（ノ）ケ（ノ）チ（ノ）打（ク）鳴（ル）ラ（ノ）ス（ノ）磬（ノ）佛（ノ）子（ノ）テ（ノ）磬（ノ）カ（ノ）ネ

誦（ル）經（ノ）梵（ノ）唄（ノ）一段（ノ）注（ノ）ナ（ノ）ド（ノ）三（ノ）打（ク）津（ノ）八（ノ）講（ノ）ナ（ノ）誦（ル）經（ノ）時（ノ）證（ル）義（ノ）師（ノ）鐘（ノ）ト（ノ）云（フ）

威儀所 磨ヲ打チテハ海義ヲ止ム 傳名抄十三 二伽藍具 磨ヲ知
茶良之 名義抄 磨ヲ知

うちあらし 内習 内々ノ練習。シラゲコ 湊ノ梅枝ハ 明日ノ海遊ノうち

あらしニ海琴トモノサウクホトニ 殿上人ナドヲ冬リテチカシキ由ノ音

レモ 湖ユエ

うちあに 打着 新船ノ穂着ヲ酒ニ打着テえス

うちあね 竹根ノ下ニ 矢掛ノ下ニ 新矢ノ墨名

うちあのらち 家内 家内ノ家内ノ家内

うちあのおとよ 内大臣ノイダシ 持統化ノ夫干膳

うちあのかはら 内膳司ノイダシ 後名抄五三 内膳司ノ字知力加

うちあし 和ニ 安 一 柳ノ海 珍奇レニ義 手カレカ

うちあし 愛ニ 愛ニ 柳ノ海

遊神化 遊神者 愛子 柳ノ海 手都保之味

有明化 有明者 手都保之柳ノ海 手都保之味

うちあし 形ニ 美 妻ノ見ニ 愛ニ 手都保之味 四ニ 有都久之母

うちあし 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海

日 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海

天治ノ後 三ニ 婁 美女貞守ニ 久志支女

柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海

貴ニ 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海 柳ノ海

神尊子ハニ
クムシキ
アカラカニ抱
キウシキ
ホドニ極イッ
キヲ入リテ

是れは神尊子ハニ (五) イサキヨシ 潔白 語ヲうつしく決ムル夫婦うつしく

別レル

うへし ~~他~~ 愛ハソクシモ通ズ 又うつしく

愛クシク思フ、ウツクシカニカニメグル、野家他ハ、足友ハ弟恭

名義ハ、慈親、奥、ウツクシク、方十ニ、吾ガ夫子ガ言、愛美出テ

うへし ~~他~~ 愛うつしく、此ニ同じ其伴

うへし ~~他~~ 愛うつしく、此ニ同じ其伴

うへし ~~他~~ 愛うつしく、此ニ同じ其伴

うへし ~~他~~ 愛うつしく、此ニ同じ其伴

うへし ~~他~~ 愛うつしく、此ニ同じ其伴

神尊子ハニ

神尊子ハニ

うへし ~~他~~ 愛うつしく、此ニ同じ其伴

乗替馬ニ 神尊子ハニ 乗替馬ニ 神尊子ハニ

空徳多至君 御殿ヨリうつしむまどモ引キタリ

空徳内侍ノ督 中將うつし乗リテ車ノ轆石ヲ添ヒテシツ

空徳内侍ノ督 中將うつし乗リテ車ノ轆石ヲ添ヒテシツ

空徳内侍ノ督 中將うつし乗リテ車ノ轆石ヲ添ヒテシツ

空徳内侍ノ督 中將うつし乗リテ車ノ轆石ヲ添ヒテシツ

空徳内侍ノ督 中將うつし乗リテ車ノ轆石ヲ添ヒテシツ

空徳内侍ノ督 中將うつし乗リテ車ノ轆石ヲ添ヒテシツ

空徳内侍ノ督 中將うつし乗リテ車ノ轆石ヲ添ヒテシツ

うつし、くら 移馬一、うつし、うまノ條ヲ

うつし、ち 卯櫃一ハ卯杖ノ語草ヲ見ヨ

簡書 正月ノ廿卯日、卯杖ト云フ、經所ヨリ奉ルモノ、櫃ト云フモノ、長サ三

寸廣サ一、寸形四角ナリ、桃木ニ作ル、邪鬼ヲ伏セシムルヲ(桃ノ條ヲ見ヨ) 櫃

ノ堅ク、孔ヲ母モ、五ノ色ノ経ヲ通シテ、重ル、一、五尺ナリ、畫ノ油座、西南ト懸ケル

臣下ノ家ニモ送リテ相贈ル、江家老矣、ニ卯杖、經所進、卯櫃、藏人取

之、結、所書、卯杖、懸、前、狂云、櫃、未、出、五尺許、可、用、桃木、又、四方、可、削

枕、草子、ノ、一、も、一、木、ワ、カ、タ、チ、テ、云、ヤ、う、つ、ち、ノ、木、ノ、ヨ、カ、ラ、ム、伐、リ、テ、オ、ロ、セ、

うつし、くら 移馬一、官人、奉用ノ時、其所屬ノ本ヨリ、馬寮ニ、移、牒、シ、テ、給

セラル、ヨリ、ノ、名、サ、ト、云、フ、(後、松、日、記、上)

官人、供奉ナドノ時、馬寮ヨリ、其、奉用ニ、給、セ、ル、馬、コ、レ、ニ、用、ル、靴ヲ

移、靴、ト、云、フ、移、馬、移、靴、共、思、ハ、シ、テ、うつし、ト、モ、云、フ、又、私、有、ノ、モノ、ニ、ツ、キ、テ、モ、

乘、ノ、用、ナ、ス、人、ニ、給、ス、ル、ニ、云、ヘ、リ、ト、見、ユ

西宮祀、臨時、五、東宮行啓、公、賜、出、帯、カ、料、移、馬、ニ、新、立、帯、刀

未、神、之、間、行、啓、近、侍、將、已、下、供、奉、

空穗、藤原君、四、十、御、既、ヨリ

うつし、む、ま、下、モ、引、キ、タ、リ、同、初、秋、六、十、中、將、う、つ、し

ニ、乘、リ、テ、車、ノ、轆、近、ウ、添、ヒ、テ、立、ツ

傳名抄十五「唐鞍移鞍」飾抄下後、左右將各一人、用、良原

移近代面々新調用之「傳名抄十五」唐鞍移鞍「宇治」

拾遺五第二條伏見修理大夫、許へ殿上人廿人許押

寄セタリケルニ云云、既ニ黒馬廿疋、各此馬ニうつし

ノ鞍置キテ束セテ返シニケリ「節文」空徳初秋十六

四「御厩ノ御馬ノ中ニ、仲忠策ルトモ咎ナカルベキ、御

馬うつし置カセテママへ

④ 万二廿廿 明日香

皇女續言歌 宇都留臣と云 七廿廿春方 義抄リカサニ (現身サレトシ)

うろそみ二再 轉り(せほく しほくし)

同二廿廿都 曾屋上恩に 以手撰人各々 又見之云(現身サレトシ)

うろそみの「馬物或ル去ノ文ヲ馬ニ取ル」

うろそみの「馬種」其是をナド馬ニ取ル意「續」云フ三同

廻國雜記(天明)「うろそみの種、扇カヤ、是ナラム月、海原雪、一箇ナリ、

うろそみの「現身」(三)「現身」(三)「現身」(三)「現身」(三)「現身」(三)

万十九三「足引ノ山ノ木末モ云々、風文リモ三、散リケリ、宇都留臣、其カクシ

ナラシム、内ニハ、空蟬ノ神ニ勝ヘズ、離レ居ラズ云々、吾カ悲ル君云々

(天智三上冊、御皇位ノ由致) (三)「轉」ニテ、此世、現世、万三、打智見、

万一「空蟬ノ命ヲ惜」(三)「轉」ニテ、此世、現世、万三、打智見、

レヤ、同三、打蟬ノ借ル身ナリ、(以上命世人身ト云々、是レ所ニ云々)

三十一家集元
年十月調御位
此坐元祿

うづりまふ 他四 愛納一珠の活用せしむるに謀る玉せぬ珠重也

又うづりまふ 謀る玉せぬ珠重也

鑑化の和氣元年七月 記 天坐元神 納受ス 一のふく音轉ナリゆる

國坐元神 相坐豆奈以奉り 福の毒れ奉り 同 相坐

豆奈以奉り相扶奉り 中世神代 相坐津乃以奉り

うづりまふ 納受 形一うづりまふ見

うづりまふ 他四 偽一空張る義ナラム 一うづりまふ

持統紀 傷清白 詐求 幸媚 名詞形ニテ久奉他

虚言 継体他 必是虚也

42

10 委むらや製

後松日記十八 吾妻(江宮某村)手アリ 衣冠ト云ハタタラフはニ衣ナド重

又ルコトハ知リ人モナシ

盛衰此其二 兵世後隱 兵世後 軍兵散 成テ臥木 天河 隠レケリ

大場 臥木不審ニ空ニ入テ搜ヤ者共ト下知レケル

△ 夫木十八冬
 「千」又「七」ニ
 「火」古ノ「ア」リマ
 「テ」ス「メ」ド消エ
 又おもひも「レ」

△ 四馬内侍集

「オ」コシ「火」ノ「出」テ「ラ」ハ
 「灰」ニ「カ」ク「シ」ツ「ウ」フ
 「マ」シ「メ」テ「名」ノ「赤」ヨリ
 「ソ」思「ハ」

いっひ 一辟月一カタウテ。一辟月ノカ

うへもも 股ハ内股ニ轉裏股意カ。うつあし。うちあし(脛)

うちもも 同ジ。ウチアハセ。字鏡ニ。股。山子豆モモ

うへてぞろ 自下一 打込 進ニカル。オレダス。

うつむ 他四 埋ハうたがレ(堆)うつ。治用。目。所獲。意ル(し)

物の下 入レテ覆フ。ウツムル。ウツル。大治子鏡五九。埋。ウツムル。而。所獲。意ル(し)

拾遺の 離別。散ル花。路見。見。うつまナム。別ル。人モ。立チヤトル。善和島

紫衣新集。ヨヨニカク。日野ノ杉葉取。うつむ雪。ヲレホノ。松。今日ヤマカ(丸)

源 柳 柳。紅。うつみ。火。燧。出。テ。為。事。千。首。雨。云。今。今。ま。サ。ル

△ 甲申又ガ。サヤカ。見ユル。曙。大木抄。三。六。思ヒ。カ。メ。モ。今。カ
 絶。エ。ト。ヤ。心。ヨ。ウ。ウ。モ。夕。暮。空。縁。曲。南。未。散。敷。ヲ。若。埋。目。山

ル里に誰し住みテ秋の衣の衣打ツル。 竹葉集。五。うらぎ。云云。
 衣。裾。破。れ。し。毛。の。髭。毛。に。似。え。テ。マ。ヤ。 舉。白。耳。(木下長嘯) 鳴。キ
 タ。エ。又。秋。昔。春。レ。ニ。ヨ。リ。深。草。ウ。ラ。ぎ。ぬ。打。ツ。音。バ。カ。リ。シ。テ
 う。づ。ら。ぎ。ぬ。一。點。衣。ウ。ラ。ぎ。ぬ。云。レ。ヲ。見。ヨ
 う。づ。ら。ぎ。ぬ。も。一。點。衣。ウ。ラ。ぎ。ぬ。云。レ。ヲ。見。ヨ

うつろふ 自四 映一映三 延前條 徳原三同じ

映ル 万土五 木ノ間ヨリ 移感月ノ影惜目 愛シテ 徘徊ルニ小

夜深ケニケリ 夫木抄五 ナル雁ニタラシ川ニスルハテ水ノ濁ベノ懸柱ナリ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

うつろふ 自四 移一 延前條 徳原三同じ
ろよ (船送) 同例ナリ

(二) 移ル 梅枝ニ鳴キ 移徙其羽白妙 沫雪

源橋姫 地ニうつろひ住ミタマフヘキ所ヨロシキモナカリケレバ

(三) 変ル 万六 世中テ言ハナキモノト今ゾ知ル奈良ノ都ノ移徙

見ル (遷都後ノ荒廢) 源本木ニ心ニうつろふ方アリトモ

(四) 衰ス 褪ム 万九 紅ノ色モ宇都宮ニ (紅唐) 同二十 唯花

宇都宮ノ木ノ根ニ長クナリ 源寄生 源前菊

(五) 散ル 古今ニ春ニ花ノ散リ 遷キチ吹ク心ツカニ

うつろふ 見ル 後撰ノ春下 風ヲタテテ花ノ散リナリ

千三ノハリニシテモ
月草ノ移情
吾レ持タヤミ
(ニ首共ニ次
項ノ意ヲ兼

打撃^ハ倒^シレ 著^シ河原^ノ 壇^ノ光^ノ壇^ノ坊^ノ相^ノ撲^ル 今^ノ度^ノ取^ル云^フ

又^シ寄^シ合^シヒテ^ハ取^ル壇^ノ光^ノ壇^ノ坊^ノ相^ノ撲^ル 本^ノ平^ノ記^ノ 十三^ノ 條^ノ 大^ノ佛^ノ為^ル

撲^ル深^ク徹^シ度^ニ折^レテ^ハ五^ノ百^ノ餘^ノ人^ノ一^ノ人^ノモ^テ残^ラズ^ニ壓^シテ^ハ死^ニケ^リ

(三) 神^ニ謝^セテ^ハ平^ノ家^ノ 十二^ノ 條^ノ イ^ノカ^ニ土^ノ佐^ノ坊^ノ 起^シ請^フ 早^クモ^ウテ

4 カル^ノツカ^シ (起^シ請^フ文^ノ 皆^キテ^ハ挿^ヘテ^ハ名^ナナ^リ) 宇^ノ治^ノ拾^ノ遺^ノ 二^ノ第^ノ八^ノ條^ノ 鳥^ノ

半^ノ真^ノチ^ニカ^ケテ^ハ此^ノ鳥^ノ 式^ノ神^ニニ^テア^リケ^レ云^フ オ^ノレ^ノ只^シ今^ノ式^ニニ^テ

死^ニ侍^リヌ

うろ 自^レ下^一 (一) う^ノつ^ノ (所^ノ壓^シ) ノ 口^ノ語^ノ 氣^ノ力^ノ弱^ク 所^ノ壓^シ倒^レ 晴^ノ

場^ニう^ろ 強^クイ^テ相^ノ争^フニ^テ死^ニケ^リ (二) 火^ノ暑^クニ^テ弱^クリ^テ村^ノ田^ノレ^カル

ア^ノル^ノス^ノ 眞^ノ 眞^ノガ^ノ (三)

う^ろ (一) 腕^ノ 獲^ル名^ノ 腕^ノ 疾^ク也^ノ 言^フ可^ク此^ノ由^ニ也^ノ 意^ハ就^テ腕^ノ 疾^ク 手^ノ 臂^ノ 之^ノ

折^レテ^ハア^ノル^ノス^ノ 眞^ノガ^ノ (三) 火^ノ暑^クニ^テ弱^クリ^テ村^ノ田^ノレ^カル

ウボン (巻) 優曇

ウボン

鴉^ノ鷲^ノ物^ノ語^ノ 十^ノ篇^ノ 是^レ是^レ優^ノ曇^ノノ^ノ相^ノ現^ル 首^ノ龜^ノノ^ノ浮^ル水^ノ 喜^ビテ^ハ餘^ノ

ア^ノル^ノモ^ノノ^ノカ^ノナ^リ

腕^ノ 疾^ク 手^ノ 臂^ノ 之^ノ 折^レテ^ハア^ノル^ノス^ノ 眞^ノガ^ノ (三) 火^ノ暑^クニ^テ弱^クリ^テ村^ノ田^ノレ^カル

打撃し倒れし 著聞某十六 壇光壇坊相撲 今一度取らば

又寄合ヒテ取ルニ壇光ラニケリ 太平記十三 足利殿の御下向 條「大佛殿ノ

棟梁御座ニ折テ云ニ五百餘人一人モ残ラズ 歴ニラテ死ニケリ

(三) 神ニ四難セラル 平家 十二ののイカニ土佐坊 起請ニ早クモラテ

4カルツカシ (起請文ニ皆キテ挿ヘニ名ナリ) 宇治拾遺ニ第八條鳥ニ

半真ニシカケラレ「此鳥ニ式神ニシラソケレ云ニオノレ只今式ニラテ

死ニ侍リヌ

うろ 自下一(二)うつ(所歴)ノ口語 筆歴ニ弱ル 所歴倒「晴ノ

場ニうろ 強イ相争ニラテハ(三)火暑ニ弱リテ付固レカル

アナルスエ 眞 眞ガ(うろ)

うろ (一) 腕ニ弱名 腕疾也言可死由也意就腕疾 腕ノ弱ク

折ル 折ル身言 暑日ノ折ル 折手 折 (現をつつ 叫喚人々)

折ル 折ル身言 暑日ノ折ル 折手 折 (現をつつ 叫喚人々)

折ル 折ル身言 暑日ノ折ル 折手 折 (現をつつ 叫喚人々)

折ル 折ル身言 暑日ノ折ル 折手 折 (現をつつ 叫喚人々)

折ル 折ル身言 暑日ノ折ル 折手 折 (現をつつ 叫喚人々)

折ル 折ル身言 暑日ノ折ル 折手 折 (現をつつ 叫喚人々)

折ル 折ル身言 暑日ノ折ル 折手 折 (現をつつ 叫喚人々)

折ル 折ル身言 暑日ノ折ル 折手 折 (現をつつ 叫喚人々)

折ル 折ル身言 暑日ノ折ル 折手 折 (現をつつ 叫喚人々)

折ル 折ル身言 暑日ノ折ル 折手 折 (現をつつ 叫喚人々)

折ル 折ル身言 暑日ノ折ル 折手 折 (現をつつ 叫喚人々)

折ル 折ル身言 暑日ノ折ル 折手 折 (現をつつ 叫喚人々)

折ル 折ル身言 暑日ノ折ル 折手 折 (現をつつ 叫喚人々)

折ル 折ル身言 暑日ノ折ル 折手 折 (現をつつ 叫喚人々)

うまがせ (連体) 頂上 昇津 直のマリテ (うまがせ) 其教誨

左 行四段 (活用) 完了 語ナルヘシ 但し連体形 物ニ見ユ

教誨 右左 (連体) 古事記上 三 第 棚搦 (嬬) 宇那加世

流玉 湖統 五十三 八 海人少女等 纒有 鏡中 照ルガニ (是ハ一ノ章ニシテ)

うまげ (連体) 八項ヲ活用セサセテ (うまげ) 四段活用 直のアリテ 其完了

うまげ (連体) 但し其他 活用形ヲ具ス (香 綱) 首

項ニ懸ケル 袖代紀上 四 其後 所嬰 五百箇 湖統ノ 増

万七 五ノ字 奈 雅流玉 七條

うまがせ (連体) 八項ヲ活用セサセテ (うまげ) 四段活用 直のアリテ 其完了

(魚)

うまがせ (連体) 八項ヲ活用セサセテ (うまげ) 四段活用 直のアリテ 其完了

但し連用形 物ニ見ユ 一 項ニテ 纏ヒ合ヒ

古事記上 三 八ノ字 以 江河 以 賣ト 婚ヒテ 為ニ 字 伎由比 (今口 巫也) 而

宇那加世 氣理豆 万十八 牽牛 星 織女 星 相カリ 宇木 我 成 利 居テ

思ヒ 語ニシテ 空穂 御 撫テ 長良 河 下 時

うまがせ (連体) 八項ヲ活用セサセテ (うまげ) 四段活用 直のアリテ 其完了

京 坊 素 志 奉ル 職 孝 徳 紀 上 四 坊 置 令 一 人 掌 按 捺 成 口 督

登 好 非

うまがせ (連体) 八項ヲ活用セサセテ (うまげ) 四段活用 直のアリテ 其完了

大化三年二月 京海坊置長一人

うまがせ (連体) 八項ヲ活用セサセテ (うまげ) 四段活用 直のアリテ 其完了

うきぎょめし 鰻飯 熟き飯 鰻ノ背焼ヲ入レルモノ 京都ニマムシ。

うきぎょめた 八項着綿ウキギョメタ（ウキギョメ）

綿帽子 一種 婦人頂ヨリ 頸ハカケ 袂ルモ 袖口以集ウキギョメ（實カ）おま里

ワッケヌ 袖ウキギョメ（ウキギョメ） 促綿ウキギョメ 極言金漆黄一洋綿

三作ル

うきぎょめし 項之造 辨ウキギョメ（ウキギョメ） 後之ウキギョメ（ウキギョメ） 續世ウキギョメ（ウキギョメ） 六十三イタク鳥帽子

ノ尻高クアケタルニウキギョメノ結ヒテ出テムト思フナリ

万十六、カ黒丸髪、真摺持、三三摺中里、取来糸、解中丸、懸ニ成シ

髪

うきあ 鬢髮 一頂集ウキア（ウキア） 貞男女児生シテ二歳マテハ髮ヲ録

ミオク三四歳髮置直ト東オ是レ被髮ウキア（ウキア） 貞男女児生シテ二歳マテハ髮ヲ録

髮ノ有ウキア（ウキア） 頂ウキア（ウキア） 是レウキアト云フ

中髪ウキア（ウキア） 又ハ是レト云フ 振ウキア（ウキア） 貞男女児生シテ二歳マテハ髮ヲ録

字鏡ウキア（ウキア） 髮ウキア（ウキア） 字奈井ウキア（ウキア） 後名ウキア（ウキア） 二十ウキア（ウキア） 鬢髮

字奈井 俗用重髮二字謂ウキア（ウキア） 童子垂髮也

万十六、橘ノ寺ノ長屋ニ吾カ津村シ童女波奈理ハ髮上ケツム

カ稱若冠女ウキア（ウキア） 未著冠ノ諺ウキア（ウキア） 曰放髮ウキア（ウキア） 内七三未通

女ウキア（ウキア） 放ウキア（ウキア） 髮ウキア（ウキア） 結ウキア（ウキア） 山ウキア（ウキア） 内ウキア（ウキア） 九ウキア（ウキア） 五ウキア（ウキア） 八ウキア（ウキア） 年ウキア（ウキア） 児ウキア（ウキア） 女ウキア（ウキア） 児ウキア（ウキア） 片ウキア（ウキア） 生ウキア（ウキア） 時ウキア（ウキア） 小ウキア（ウキア） 放

女ウキア（ウキア） 放ウキア（ウキア） 髮ウキア（ウキア） 結ウキア（ウキア） 山ウキア（ウキア） 内ウキア（ウキア） 九ウキア（ウキア） 五ウキア（ウキア） 八ウキア（ウキア） 年ウキア（ウキア） 児ウキア（ウキア） 女ウキア（ウキア） 児ウキア（ウキア） 片ウキア（ウキア） 生ウキア（ウキア） 時ウキア（ウキア） 小ウキア（ウキア） 放